第101回大腸癌研究会 病理委員会 議事録

日時：令和6年7月11日（木）午前10：00〜11：30
場所：名古屋コンベンションホール3階 第301＋302会場（中会議室）
議長：菅井 有
出席者（敬称略）：新井冨生、市川一仁、上杉憲幸、落合淳志、河内洋、小嶋基寛、岸本光夫、坂本直也、菅井有、杉本亮、関根茂樹、牛久哲男、八尾隆史、斎藤彰一、下田将之、門松雄一朗、山田一隆、森永友紀子、村田幸平、味岡洋一、橋口陽二郎、大石琢磨、藤島史喜、佐村博範、石川洸、九嶋亮治、市原真、上野秀樹、廣純一郎、徳永卓哉、近藤彰宏、田子友哉（32名：on site 28名、web 4名）

会議内容

1. **神経内分泌腫瘍の組織分類およびT分類について（河内）**
   前回の病理委員会で議論されたCarcinoid tumor/NETの併記について、Carcinoid tumorを残す理由を説明すべきとの意見があった。この件に関して、後日病理委員会内でメール審議を行う。河内先生に、記載案を次回までに作成・提出していただくことになった。
2. **小腸癌取扱い規約の病理図譜について（菅井、橋口）**
   小腸癌取扱い規約に掲載する病理図譜作製に関して、委員から種々の意見が得られたが、病理委員会として図譜を作製・協力する方針に決定した。肉眼型と組織型を比較して提示をすることになった。
3. **MM癌をTis癌に含めることについて一現時点では規約に明記しない方向性についての成否について（上野）**
   前回の委員会で、粘膜筋板に浸潤している病変をTis癌とするかに関して、改訂案の「Tis癌は、本来は粘膜固有層に浸潤していない上皮内癌(carcinoma in situ)を表すが、大腸癌においては例外的に癌が粘膜内（粘膜固有層および粘膜筋板）にとどまる癌（すなわち粘膜内癌）を意味し、浸潤の有無は問わない。」を追加する方針となったが、国際的な状況を鑑みて、現規約のとおりとして明記しない方針とした。注釈として粘膜筋板浸潤癌の扱いを明記する方針とした。
4. **Buddingについての規約の記載の変更について（上野）**
   上野先生から改訂案 （簇出の評価する際の視野数、および簇出の判定は発育先進部に限らず、hotspotで測る事を明記する）が提示され、病理委委員会でも了承された。
5. **臨床的にT4bと診断して合併切除するも病理学的に他臓器との境界が不明瞭となっている場合の壁深達度の記録改定案について（上野）**
   pT3 (Adhesion)の記載について、種々の意見があり継続審議となった。
6. **進行癌の肉眼型（特に１型と２型）の写真の見直しに加え、説明文章の要否につ**

いて（上野）

規約改定委員会からの依頼であり、後日委員長が担当を決める方針とした。

7. 取扱い規約に掲載する虫垂の項について（岸本、八尾）

虫垂粘液性腫瘍の記載、Grade および粘液漏出の有無について議論がなされた。グレードに関して用語の表現などをさらに検討することになった。ほか、いくつかの意見が出たため、継続審議とした。岸本先生と八尾先生で再度協議し、次回の病理委員会において最終案を提示していただく方針となった。

8. 鋸歯状病変病理分類の大腸癌研究会ウェブサイトへの掲載案について（河内）

鋸歯状病変病理分類（SuSA、SSL の記載）について、味岡会長から学会 HP のバナー上の「各種委員会のお知らせ」に、「病理委員会からのお知らせ」を作成してもらい、掲載可能にする事が提示された。

9. 委員の紹介、新委員の選出について（菅井）

関根茂樹先生が慶應義塾大学の教授ご就任が紹介された。東京大学・牛久哲男先生、東京慈恵会医科大学・下田将之先生が新委員に選出された。

文責　岩手医科大学　杉本亮